

直感で伝える構造設計 関西の構造家・山浦晋弘

朝倉幸子◎TH-1

illustration: Taco◎Switch・エンタテインメント

■『構造設計の基本』！

大阪市西区京町堀にある、日本建築構造技術者協会関西支部（JSCA関西）。JSCA関西事務長の石原邦子さんが「この本！」と出したのが『直感で理解する！ 構造設計の基本』（学芸出版社、2016年）。日本建築協会が企画し、わかりやすい構造設計の本を書いて欲しいとの依頼を受けて、山浦晋弘さんが執筆した。主に建築を勉強中の若者に向けている。企画の狙いどおり、構造設計の基本が軽快な文章とイラストで解説されている他に類書のない構造本だ。

石原さんは会の運営の準備など忙しい日々を過ごす、「構造設計者を紹介して」など一般の人からの電話にも対応するそうで、関西ばい。支部の山浦晋弘さんに技術者として意見を求めるなど頼りにしている。母校の大阪市立大学工学部などでの大学講師歴が長い山浦さんは、安井建築設計事務所大阪事務所の構造部長が本業です。

『直感で理解する！ 構造設計の基本』を、構造家と現場で付き合う施工管理者に読んでもらった。理工系大学出身で算数ができれば構造設計ができるものと思っていた人が多いから、「国語能力が不可欠である」と書かれているところに驚いたという。

だれにも分かる言葉で話し、文章を書く重要性は、どんな職種にも通じるだろう。しかし、建築の企画や意匠設計者と現場の施工管理者とを比較すると、計算が主体になる構造設計者にも、国語力が大事だと断言する山浦さんなのだ。国語力は仕事を進めるための道具としてのコミュニケーションにも不可欠であると実感している。

インタビューで山浦さんとの会話が弾み、グングン引き込まれることが論より証拠です。一流の建築設計者や技術者は絵心がある。山浦さんの本も、文章に加え絵も上手い。「ホンマにイ本ですねん！」。



■ワクワク感と構造設計の魅力

「時間をデザインする」と山浦さんは言う。常に先に相手に情報提供や作業依頼をして、その間に自分の仕事を行うように心がけている。「待たない、待たせない」発想で動くから現場からのクエスチョンやヘルプに対して返答が早い。契約に対しては、「親が亡くなっても納期を守らなければならない」という覚悟で仕事に取り組む山浦晋弘さん。

兵庫県立淡路医療センター、BLOSSOM CAFE（近畿大学）、KITHOUSE（京都工芸繊維大学）、和歌山大学観光学部校舎、那覇空港国内線旅客ターミナルビルなどを着々と担当してきた。

もう一つの立場JSCAの関西支部長としても構造設計者の育成に力を入れている。2004年に当社（建築技術）から出版し、学生から実務者まで幅広く読まれている『建築構造用語事典』の続編を、構造家・山浦晋弘さんを中心に進めて欲しいのが覇志堂の願い。特に若い人に向けて、108（煩惱の数!）の用語を説明するスタイル。

子供の頃のお年玉を握りしめて買ったプラモデルをつくった時のワクワク感が忘れられない。今も構造が楽しくて仕方がない、と思える原点だという。組立図に沿ってつくるプラモデルとは違って、ゼロから考える構造設計は奥深い。特に、ごまかしが効かなくて「設計者のスキルを映し出す鏡」と感じる鉄骨造に魅力を感じるとも。「緊張感をもって設計しなければならない。」と、あくまで真摯なのです。

頑張り過ぎて倒れた経験は「時間をデザインして」再発防止して。感性から切り込む構造本『建築構造用語事典』の続編を乞うご期待！